

ほけんだより 9月

令和 4年 9月

白鳥保育園
看護師

8月の感染症

新型コロナウイルス感染症…16名（本園）4名（分園）
アデノウィルス…1名（分園）
ウィルス性腸炎…1名（分園）
突発性発疹…1名（分園）

まだまだ汗をかく季節です。皮膚トラブルの予防のために、たくさん汗をかいたときは石鹸なしでぬるめのシャワーを浴びたり、こまめにおむつ替えや着替え、そして保湿をしてください。

夏の肌トラブル

肌トラブルを
防ぐために

蚊に刺されたとき

大人が蚊に刺されるとすぐにはれ、じきに治まります。ところが小さな子どもは、刺されてしばらくたってから、びっくりするほど大きくはれて水ぶくれができることもあります。かき壊さないよう、早めに手当をしましょう。

ケアは



①刺されたところを
水で洗い流します。



②かゆみ止めを塗ったり、ぬらしたタオルやハンカチで包んだ保冷剤などを当てたりして、かゆみをやわらげます。

あせもが できたとき

汗を分泌するところに、汗やほこりなどがつまって炎症が起こった状態です。汗をかきやすい部位に赤い小さなポツポツがたくさんできて、かゆくなります。

ケアは

シャワーなどで汗を良く洗い流します。外出先などでは、汗の成分が皮膚に残らないよう、濡らしたタオルで汗をふき取りましょう。

予防は

汗をよく吸い取る綿の肌着やシャツを着せましょう。



とびひが できたとき

皮膚をかきむしって傷ができたところに、細菌が感染して、ジクジクした湿しん（とびひ）ができます。とびひは感染力が強いうえに、ひどくかゆいため、かいた手で体のほかの部分に触ると、そこにも湿しんが広がります。

ケアは

シャワーを浴び、皮膚の清潔を保ちます。かき壊して広がる、周りに感染するのを防ぐためにガーゼなどで保護することがあります。

治療は

抗菌薬の塗り薬を使います。
よくならないときは抗菌薬の内服をします。

- ☆皮膚を傷つけないように爪を短く切る。
- ☆かゆみを和らげるように冷やす、かゆみ止めを塗る。
- ☆治りが遅い、広がった、湿疹が変化したときは、小児科や皮膚科を受診する。



- ◎ 内科健診は登園している園児のみ実施しました。嘱託医と相談し、未受診者の再健診は11月の2回目の内科健診のときにフォローすることになりました。
- ◎ 歯科検診は分園のみの実施となりました。本園はコロナの影響で自粛中のクラスがあったので9月に延期となりました。詳細は後日連絡します。